

平成 26 年度第 2 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 26 年度第 2 回文系チャレンジ講座が、平成 26 年 7 月 16 日、「小さな世界企業の経営学」をテーマとして、本学経済学部教授の松尾純廣先生によって行われました。

遠隔配信された大分雄城台・大分鶴崎・安心院・日田・大分商業・別府青山・大分西・三重総合・臼杵の 9 校(209 名)と、来学した大分高校(28 名)を合わせて、計 237 名の高校生が受講しました。

松尾先生は、授業に先立って、「今回の講座では、大学で扱う“経営学”とはどのような学問かについて説明します。“経営学”は、主に「会社」のしくみや活動についての学問です。今回は、地域の小さい会社ながら世界のトップ企業となっている会社ー【小さな世界企業】について紹介します。規模が小さく、名前が知られていない会社が、なぜ世界のトップになれたのか紹介し、会社の良し悪しは規模や名声などではないことを学んで欲しい。」と、経営学の世界に導いていただきました。

松尾先生は、海外へ進出している企業を紹介しました。「ダイソー」や「コイイチ」は有名ですが、“味千ラーメン”の「重光産業株式会社」(熊本市)は九州での事業展開より、国内海外に 800 店舗も展開していること、また貸衣装業だった「ワタベウェディング株式会社」(京都市)は、日本で初めて海外での挙式を手がけた企業で、現在中国などに進出し、中国の結婚式文化を変えたとも言われていることなど、企業の事業展開の違いを説明しました。また、日本のファッションなどを、海外に広めようという国の政策をうけた「原宿ストリートF」(ブティック)についても説明しました。

次に、小さな世界企業に見られる特徴として、“オンリーワン”、“フォー・ユー”をキーワードに 2 つの企業を紹介しました。はじめに「岡野工業株式会社」(東京都墨田区)は、町工場から 5 人で 6 億円を稼ぐ世界企業に発展した「オンリーワン」企業です。この会社は、金属板で鈴を作った経験からステンレス板を丸めるという新しい発想と長年培った技術で、不可能と言われた細い針(長さ 20 ミリ、穴の直径 90 ミリ、外径 200 ミリ)、“痛くない注射針”を完成させ、世界シェアは 100% だそうです。“オンリーワン”とはその会社にはできないということの意味します。2 例目は、「日プラ株式会社」(香川県三木町)という水族館などの回遊水槽の世界シェア 70% を占める“フォー・ユー”企業です。この水槽はアクリル板を重ねているにもかかわらず透明で、人と魚との境目を感じさず「魚を見る」から「海を体感する」場所に水族館を変えました。“フォー・ユー”とは単なる製造ではなく、来場者(客)の目線でサービスを考えることを意味します。

最後に、小さな世界企業は“オンリーワン”＝“イノベーション”、すなわち他ではできない新しいものを生み出すことができる企業、先端ではなく光る後端(熟練の技)による“イノベーション”を実現できる企業であること、そして、その“イノベーション”は、客が起こすものである(客が喜ぶことを考えることが“イノベーション”につながる)と、熱っぽく語っていただきました。

松尾先生は、「これからも世界に通用する会社をより多く紹介していきたい。この講座で経営学に興味を持った受講生の皆さん、ぜひ大分大学で“日本を元気にする経営学”と一緒に学びましょう。」と呼びかけ授業を終えました。受講後の高校生の皆さんの日本の未来を見つめるようなさわやかな表情が印象的でした。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(928%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(98%)、「授業内容はわかりやすかった」(91%)、「板書(スライド)は適切だった」(91%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(95%)と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(77%)、「映像はよく見えた」(86%)という結果がでました。受講生の具体的な声として、「先生がフレンドリーで、受講生に声をかけていただき、元気のでの授業であった。」「楽しく受講できた。日本の中小企業の底力を見せつけられた。」「オンリーワン、フォー・ユー、イノベーション、どれも、なるほどだと思った。」「自家の仕事の活性化に向けて、頑張らねばと強く感じた。」「大分大学経済学部を目指したい。」など、多くの感想が寄せられました。

